

『「ゼロ災 55」無災害運動キックオフ講習会』

が開催されました

米子労働基準監督署（署長 神田哲郎）及び（一社）鳥取県労働基準協会西部支部（支部長 永東康文）は、平成 27 年 11 月 6 日（金）に、「ゼロ災 55」無災害運動を前に『「ゼロ災 55」無災害運動キックオフ講習会』を開催しました。

講習会の第 1 部では、本年度から鳥取労働局と災害防止団体が取組を始めた『安全「見える化」とっとり運動』の発展を図るために、「見える化」に取り組んでいる管内事業場の事例発表が行われ、第 2 部では「転倒」災害の防止を目的にした講演会が行われました。



あいさつをする神田署長



あいさつをする永東支部長

はじめに神田米子労働基準監督署長が、「米子監督署管内の労働災害は昨年に比べて減少し、一昨年の水準に近づいてきたが、さわやかな新年を迎えるためには労働災害の減少を目指さなければならない。」とあいさつし、続いて、永東西部支部長が、「報告・正義・柔軟・学習の安全文化の 4 要素を説明し、労働災害を起こさないという強い決意を持って「見える化」を推し進めていこう。」とあいさつしました。

続いて行われた事例発表では、寿製菓株式会社、岡田電工株式会社、株式会社皆生グランドホテルによる「見える化」の取組が発表されました。

寿製菓株式会社経営管理部総務課岡本副リーダーは、「誰が見ても分かりやすく、確実に行動できる」ように工場内の「見える化」を進めているとして、扉の開閉時の注意を呼びかける「見える化」や駐車場の従業員通路を「見える化」した事例を発表しました。

岡田電工株式会社の工務部工務課遠藤課長は、脚立を使った安全作業や蛍光マーカーによる「見える化」を紹介しました。

最後に、株式会社皆生グランドホテル総務部小瀧課長が、通路に台車などの置き場所の明示や倉庫の整理に係る「見える化」の取組を発表しました。

第 2 部では、『「転び」事故の予防科学ー「転び」事故の発生とその防止策』と題し、長年「転び」のメカニズムと防止対策について研究している公益財団法人労働科学研究所客員研究員 永田 久雄 氏から講演がありました。



講演をする永田久雄 氏

「転倒」災害の主な原因は、①身体機能の衰え（加齢、病気等）、②不安全な歩行環境（段差、凸凹等）、③歩行時の不安全状態（手荷物、急ぎ足等）、④その他（服装等）があり、骨の強度の衰え、床面の固さ、歩行速度と転倒の高さが障害を増幅させる要因となることの説明があり、その後「つまづき」、「滑り」、「踏み外し」、「はしご・脚立」による災害を防止するための具体的な対策について説明がありました。

講習会を受講した方からは、「見える化」の事例発表について、「他社又は異業種の取組が参考になった。社内で水平展開したい。」、「もっとたくさんの好事例を聞きたい。」、「見える化を導入したい。」などの感想が、講演会については、「今までの概念と異なる説明が多く、参考になった。」、「「転び」のメカニズムと統計データが示され理解できた。」などの感想が提出されました。中には、「次回の開催を期待する。」、「事業主や新人を対象として開催してほしい。」、「次回は「失敗に学ぶ」などの事例を希望する。」など発展した次回の開催を望む声もありました。